

令和 7 年度 指定管理者年度評価シート

1 基本情報

施設名称	大阪市立クラフトパーク
施設所管課・担当	教育委員会事務局生涯学習部生涯学習担当
条例上の設置目的	ガラス工芸、陶芸その他の工芸に関する講座等の開催及び情報の提供を行うことにより、市民の工芸に関する創作活動を支援するとともに、工芸の普及を図り、もって市民の文化の向上及び生涯学習の振興に寄与することを目的とする。
業務の概要	クラフト（手作り工芸）の総合施設である「クラフトパーク」における施設の維持管理と、陶芸等の工房を活用した創作教室・体験教室等の事業や、クラフト関連の情報提供等の各種事業の運営。
成果指標	講座受講者満足度／イベント参加者満足度
数値目標	8 0 %以上／平均 8 0 %以上
指定管理者名	一般財団法人大阪教育文化振興財団・イオンディライト株式会社共同事業体
指定期間	令和 3 年 4 月 1 日 ～ 令和 8 年 3 月 3 1 日
評価対象期間	令和 7 年 4 月 1 日 ～ 令和 8 年 3 月 3 1 日

2 管理運営の成果・実績

成果指標	講座受講者満足度	イベント参加者満足度
数値目標	80%以上	平均80%以上
年度実績	99.5%	90.8%
達成率	124.4%	113.5%

利用状況

	当年度	前年度	前年度比
利用人数	41,903	41,412	491
稼働率	－	－	－

3 収支状況

収入		当年度	前年度	差異（実績－計画）	主な要因
業務代行料	実績	3,896,284	2,999,247	3,896,284	光熱水費高騰にかかる損失補填
	計画	－	－		
利用料金収入	実績	165,273,823	170,263,690	-903,177	受講料及びショップ等収入の減
	計画	166,177,000	164,083,000		
その他収入 （自主事業収入）	実績	39,319,020	45,889,887	-4,267,480	教材・材料販売収入の減
	計画	43,586,500	50,036,500		
合計	実績	208,489,127	219,152,824	-1,274,373	
	計画	209,763,500	214,119,500		

支出		当年度	前年度	差異（実績－計画）	主な要因
人件費	実績	77,096,323	73,289,426	-2,433,677	雇用形態の変更による減
	計画	79,530,000	79,530,000		
物件費	実績	109,774,844	118,155,968	1,864,846	光熱水費高騰による増
	計画	107,909,998	112,286,307		
その他事業費 （自主事業支出）	実績	22,601,385	27,707,430	277,883	
	計画	22,323,502	22,303,193		
合計	実績	209,472,552	219,152,824	-290,948	
	計画	209,763,500	214,119,500		

令和 7 年度 指定管理者年度評価シート

4 管理運営状況の評価（1 次評価）

（1）成果指標の達成

評価項目	達成率	評価	特記事項
講座受講者満足度	124.4%	S	
イベント参加者満足度	113.5%	A	

（2）管理経費の縮減

市費の縮減に係る取組状況	評価	特記事項
節電による光熱水費、物件費の節減 など	B	

（3）管理運営の履行状況

評価項目	評価	特記事項
施設の設置目的の達成及びサービスの向上		
施設の管理運営	B	物品管理の運用に不十分な面が見られた。
事業計画の実施状況	B	
施設の有効利用	B	
社会的責任・市の施策との整合性	B	

5 利用者ニーズ・満足度等

【創作教室・自由創作教室】

○実施内容

・方 法：受講生に対し、アンケート用紙又はQRコードを利用したアンケートを実施（年 1 回）

・人 数：8 7 8 人、回収率 6 3.0 %

・質問項目：満足度調査 ①「満足している」、②「満足していない」

○結果（①「満足している」と回答した者の割合）

事務所職員の対応・マナー97.7%、指導員の対応・マナー99.1%、授業内容98.2%

【イベント】

○実施内容

・方 法：受講生に対しアンケート用紙を配付してアンケートを実施

・人 数：1 1 8 3 人、回収率 4 1.5 %

・質問項目：満足度調査 ①「とても満足」、②「やや満足」、③「普通」、④「やや不満」、⑤「不満」

○結果（①「とても満足」、②「やや満足」と回答した者の割合）90.8%

6 外部専門家意見

・施設の利用に関する取組として、講座やイベントに力を入れ、満足度が高い水準となっている点は評価できる。

・今後は、満足度等の個別指標に偏らず、事例研究等を通じて「人が集まる要因」を分析し、その結果を事業運営に反映していくことが望まれる。

・自主事業の拡充が進んでいない。収益確保に向け、事業コンセプトを明確化したうえで、創意工夫により事業の拡充を図る必要がある。

・バーチャルコンテンツやICTの活用が十分でないため、オンラインと対面を組み合わせた取組等も含め、活用を検討すべきである。

・連携が大学にとどまっている。キャリア教育の観点も踏まえ、高校生を含む学校との連携に取り組むことが望まれる。

・受講者のスキルや知識の向上を把握できていない。講座前後にアンケートを実施すること等により、変化を客観的に把握し、事業改善に活かすことが必要である。

7 最終評価

評価項目	評価	所見
成果指標の達成	A	昨年度に続き、満足度が高い点は評価できる。
市費の縮減	B	節電等に向けた継続的な取組は評価できる。
管理運営の履行状況	B +	物品管理体制に課題はあるものの、講座やイベントに力を入れ、高い満足度を得ている点は評価できる。
施設の設置目的の達成及びサービスの向上		
施設の管理運営		
事業計画の実施状況		
施設の有効利用		
社会的責任・市の施策との整合性		
総合評価	B	